

目次

新理事長就任のお知らせ 会員の皆様へのご挨拶.....	1
「あの世など恐らく無いと確かめに逝く」 勝田有恒顧問の逝去を悼む.....	2
法文化学会第7回研究大会・総会を終えて.....	2
法文化学会第8回研究大会について.....	3
叢書『法文化 歴史・比較・情報』.....	4
叢書第3・4巻の刊行について.....	4
叢書第5巻の編集について.....	4
叢書第6巻の発刊について.....	4
叢書第7巻の企画募集について.....	4
叢書第6巻『ネゴシエイション 交渉の法文化』原稿募集のご案内.....	4
事務局からのお知らせ.....	5
学会事務局の移転 新事務局から.....	5
監事再任の件.....	5
2003年度会計報告.....	5
年会費納入のお願い.....	5
入会の申込について.....	6

新理事長就任のお知らせ 会員の皆様へのご挨拶

理事長 山内 進（一橋大学）

このたび、図らずも法文化学会理事長に選出されました。本学会が創設されて以来、3人目の理事長です。初代の真田芳憲理事長、また次の森征一理事長お二人の献身的なご尽力のおかげで、本学会も確固とした基盤をほぼ固めることに成功しました。二人の先達に深く感謝するとともに、私もまた、微力ではありますが、本学会の基

盤をさらにしっかりと固めていきたいと考えております。

そのうえで、私は、できれば法文化学会をさらに飛躍させたいという「野望」も抱いております。学会員の数をある程度増やし、学問的にも社会的にもさらに認知度を高め、ともに集う仲間と深く法文化について論じ、成果を盛んに発表するこ

とで法文化論の重要性と面白さを広く世に伝えたい。そう考えております。

会員みなさんには、研究大会に大いに集い、叢書に論考を發表し、企画に積極的にかかわっていただくことを期待しております。また、関心をもちそうな人に声をかけ、私たちの仲間に加わっていただくように働きかけていただければ幸いです。

す。むしろ、なによりも大切なのは、私たち自身が知り合いに思わず入会を呼びかけたくなる、そのような学会を創り上げていくことだと思います。

学問的緊張感に富むと同時に、有益で、しかも楽しい。私は、そのような素晴らしい学会を創っていくために、大いに尽力したいと考えております。なにとぞよろしくお願ひいたします。

「あの世など恐らく無いと確かめに逝く」 勝田有恒顧問の逝去を悼む

法文化学会事務局 屋敷二郎（一橋大学）

去る4月26日、本学会の創設を提唱し、設立準備段階より本学会の顧問を務めてこられた勝田有恒氏（一橋大学名誉教授）が、数ヶ月来の闘病生活の末、御逝去された。

思えば昨秋の研究大会は、本年3月に駿河台大学を定年となって公職を退かれる勝田氏の多年にわたる学問的営為への尊敬の念と、本学会の活動に対する多大な寄与への感謝の念から、同大学での開催が企画されたものであった。冒頭に掲げた句は、その折に報告者として壇上に立って御身の学問的半生を語られた勝田氏が、結びに付け加えられたものである。今後の研究課題について若手顔負けの野心的な展望を情熱的に語られた後、でもイモータルではないですから、と続けて辞世を詠まれた。一同は笑い、思弁よりも実証を好み、また闊達にして磊落な勝田氏らしいフモールだと感心した次第である。それが半年後に現実のものとなろうとは、一人として思いもよらぬことであった。

御遺族の悲しみを察し、ここに謹んで勝田有恒氏の御冥福を祈りたい。氏が営々と積み重ねてこられた研究をさらに発展させ、次代へと伝えるべく、新たなる決意とともに。合掌

法文化学会第7回研究大会・総会を終えて

前 法文化学会事務局 岩谷十郎（慶應義塾大学）

2004年10月23日（土）、法文化学会第7回研究大会が、駿河台大学にて開催されました。本学会の創立を呼びかけ、本学会の顧問である勝田有恒駿河台大学教授のあたたかいご協力を頂き、盛会のうちに無事終えることができました。

当日は、午後1時から総会が開かれ、開催校から勝田会員と加藤紘捷駿河台大学法学部長からのご挨拶を頂いた後、1時45分より報告が開始さ

れました。報告は、順にまず、森光会員・津野義堂会員司会による「古典期ローマ法における無償の住居提供の法的性格」、次に、津野義堂会員・森征一会員司会による「ヨーロッパにおける法制史研究教育の現状」、休憩をはさんで、4時過ぎから勝田有恒会員・山内進会員司会による「西洋法制史から比較法文化論へ」が為され、それぞれフロアと報告者との間で活発な質疑応

答が展開されました。今回は、以上の3本の報告からなる日程でありましたが、学会叢書、『法文化 - 歴史・比較・情報』第5巻の特集として取り上げる「コンセンサスの法文化」を学会テーマに据えた報告や、ご自身の研究遍歴を学問的芳香高く物語られた勝田会員報告など、多角的な視点からの興味深い研究報告と熱心な意見交換が為され、その後に行われた大学構内の食堂を会場とした和やかな懇親会とともに、充実した学会になりました。

また、上記した総会では、本学会理事・監事の改選、ならびに新理事長の選出が為され、これま

での森征一会員に代わって、山内進会員が新理事長として選出されました。また幹事も選ばれたほか(人事については後掲)、事務局から昨年度の学会活動報告、ならびに会計報告などが為され(後掲)、同時に叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』第3巻・第4巻・第5巻の編集の件(後掲)、さらに新入会員の紹介など(関良徳氏・信州大学教育学部講師、内藤淳氏・一橋大学法学研究科博士課程、藪本将典・慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程)、いずれも全会一致で承認されました(所属・職位は、大会開催時のものです)。

法文化学会第8回研究大会について

第8回研究大会を以下の要領で行います。報告を希望される方は、6月末日までに、学会事務局までご連絡ください。テーマにつきましては、叢書第6巻編集についての下記の趣旨説明をごらんください。また、自由報告も予定しておりますので、テーマ以外の題目で報告を希望される方も歓迎いたします。

なお、報告希望者多数の場合は、学会事務局と大会開催校とで相談のうえ、報告者を決めさせていただきますので、予めご承知おきください。

1. 日程: 2005年11月5日(土)午前10時より
2. 会場: 東京都品川区荏原2-4-41 星薬科大学
3. テーマ: ネゴシエイション 交渉の法文化

事務局からのお願い ご報告をご希望される方は、法文化学会事務局まで、氏名・ご所属・連絡先・ご報告の題目(仮題でかまいません。またテーマ報告か自由報告かの別をもお知らせ下さいましたら幸いです)をご明記の上、上記日付までに以下のいずれかの要領でお送り下さい。なお、研究大会についてのお問い合わせも以下にてお受けいたしております。

・郵便: 〒186 - 8601

東京都国立市中2 - 1 一橋大学大学院法学研究科 法文化学会

・FAX: 042 - 580 - 8514 一橋大学大学院法学研究科 法文化学会

・E-mail: admin@legalculture.org

* ご報告を希望された方には、8月下旬頃に会員連絡用のご報告要旨のご提出をお願い申し上げます。これにつきましては、後日、事務局よりご連絡させて戴きます。

叢書『法文化 歴史・比較・情報』

叢書第3・4巻の刊行について

森征一会員を編者として進められておりました法文化学会叢書第3巻『法文化としての租税』が、今年4月に国際書院から刊行されました。会員の方々のお手元にすでに届けられていることと存じます。編集の労をとられた森会員はじめ、ご執筆にご協力くださいました方々、お疲れ様でした。

また、森田成満会員を編者として鋭意進められております叢書第4巻『法と身体』は、すでに校正段階に入り、秋の研究大会までに刊行できる見通しとなりました。ご関係の方々には、引き続き宜しくお願い申し上げます

叢書第5巻の編集について

現在、津野義堂会員を編者として、叢書第5巻『コンセンサスと法文化』の編集が鋭意進められております。皆様のご協力の程、宜しく申し上げます。

叢書第6巻『ネゴシエイション 交渉の法文化』原稿募集のご案内

法文化学会叢書第6巻編集担当 林康史（立正大学）

ひとくちに交渉と言っても、個人的な消費生活のレベルのものから企業等の組織や国家として行われるものもあり、性質も友好的なものから敵対的なものまで、具体的戦術や駆け引きとしても「かわす」「しのぐ」から「攻める」まで、さまざまである。人は情報に反応する際に情報を生産する。その新しく生産される情報に影響を及ぼすべく発せられる情報、あるいは、その相互作用が交渉であり、その妥結が契約として出現する。その意味では、動学理論として説明されるべきであろう。

交渉に際しては、無意識であったとしても、その背景には法感情が存在する。法感情はコンプライアンスの語で包括できるのかもしれないが、すでに法(規範)であるものに対する感情、また、法(規範)たるべきものに対する感情、遵守する感情が含まれよう。構成員個々の法感情の総体で形成される法文化が個々の交渉に影響を与え、逆に個々の交渉が法文化を変容させる。それぞれの過程を通じて法の解釈と立法に影響を及ぼすのである。これらは、例えば、金融法といった「ルールとしての法」のほうが相対性は高いと思われることから、観察されやすいであろうが、「命令としての法」にも交渉は存在し、そ

叢書第6巻の発刊について

叢書刊行委員会では、叢書第6巻のテーマを「ネゴシエイション 交渉の法文化」とすることに決定致しました。執筆を希望される会員は、以下の趣旨説明をお読みの上、下記の申込締切日までに学会事務局(一橋大学大学院法学研究科、屋敷二郎)に題目(仮題で結構です)をつけたくえで、お申し込みください。なお、採否は編者とともに編集委員会が行うことになっておりますので、その点はお含みおきください。

叢書第7巻の企画募集について

叢書第7巻のテーマを募集します。意見のある方は学会事務局までお伝えください

の交渉自体の意義は却って大きいかもしれない。

具体的なテーマとしては、裁判、ADR(裁判外紛争処理)ばかりでなく、最近、注目されるEU憲法の(不)成立過程、金融規制における業者と監督者、アウトローたちのサブカルチャー、また、各国法制史、比較法の分野等々、興味深い研究対象は多い。

単に技術論としてでなく、法文化の観点から交渉を捉えなおすことは、情報の時代ともいべき現代的な意義は大きいと考える。多様な観点から、会員諸氏の意欲的な寄与を期待したい。

1. 原稿申し込み締切日: 2005年7月20日
2. 原稿提出締切日: 2006年9月1日(締切日厳守、完成原稿のこと)
3. 刊行予定: 2007年7月
4. 原稿枚数: 200字詰め原稿用紙で100枚以内

事務局からのお知らせ

学会事務局の移転 新事務局から
山内進新理事長の就任に伴い、学会の事務局が、これまでの慶應義塾大学(岩谷十郎事務局代表)から一橋大学(屋敷二郎事務局代表)に移転しました。岩谷会員以下、旧事務局の並々ならぬ御努力に、改めて深く感謝いたします。これまでの蓄積に基づいて、さらなる学会の飛躍に事務局として尽力いたす所存です。会員の皆様からの益々のご指導を賜れましたら幸甚です。

監事再任の件

昨年の研究大会総会において、白川和雄(東洋大学)・萩原金美(神奈川大学)の両氏の監事任期満了に伴い、次期監事を引き続き両氏にお任せすることが承認されました。

2003年度会計報告

2003年度の会計(2003年9月1日～2004年8月31日)につきましては、白川和雄会員に監査をいただき、上記総会にて承認されました。

2003年度 収支

総収入	848,963
総支出	77,052

次年度繰越金	771,911
--------	---------

2003年度 収入内訳

年会費	480,000
研究大会残余金	29,622
前年度からの繰越金	339,341
計	848,963

2003年度 支出内訳

複写費	2,678
郵送費	21,540
文具代	2,354
理事会・編集委員会開催費	10,000
旅費(非学会員報告者)	40,000
銀行等振込手数料	480
計	77,052

年会費納入のお願い

学会員各位におかれましては、2004年度(2004年9月1日～2005年3月31日)および2005年度(2005年4月1日～2006年3月31日)の会費(合計7500円)の納入をお願いいたします。

先の総会におきまして、学会の会計年度を従来の各年9月～翌8月から4～翌3月に変更する旨の決定がなされました。この変更に伴い、今回に限り、半年のみとなる2004年度分の学会費

を半額の2500円とし、2005年度分5000円と合わせて合計7500円を徴収させていただくことにいたしました。

なお、今回は金額が変則的であることから、特に前納・滞納分のある会員の方々におかれましては混乱が予想されますので、事務局にて今回徴収分に滞納額を加算した金額を記載した振替用紙を同封させていただきました。

ご承知のように、本学会の年会費5000円には、機関誌である叢書『法文化 - 歴史・比較・情報』の購読料3000円が含まれておりますので、何卒、ご納入の程ご協力お願い申し上げます。

同封致しました郵便振替にてお支払い下さい。ご不明の方は事務局までご照会下さい。

郵便振替口座番号:00130 - 4 - 659540

口座名義:法文化学会

なお恐れ入りますが、間近に迫ってまいりました叢書第4巻の刊行に際しましては、学会費のより適正な徴収・運用を図るため、滞納者(3年度分以上)への発送を控えさせていただく予定でございますので、何卒ご注意ください。

入会の申込について

下記の学会ホームページから、法文化学会入会申込書がダウンロードできるようになりました。入会を希望される方にお知らせいただければ幸いです。入会に際しては、大学院修士課程以上の学歴・研究歴(在学中を含む)と、会員による推薦が必要です。必要事項を書き込まれましたら、事務局まで郵送下さい。なお、入会には理事会の承認が必要です。

法文化学会ホームページ開設のお知らせ

このたび法文化学会事務局ではグローバル・ドメイン legalculture.org を取得し、ホームページ www.legalculture.org を開設いたしました。会員の皆様からご意見・ご要望などをお寄せいただけましたら幸いです。会員のみならず、本学会の活動に関心のある非会員の方々への情報提供として、このホームページをご活用いただきたく、どうぞ宜しくお願いいたします。